

2020年度から小学校では外国語(英語)が教科として導入された。それに先立ち国立教育政策所から「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」(以下「参考資料」)が出された。この「参考資料」を踏まえて、本書の第1章では、「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「読むこと」「書くこと」の5領域について、専門家が評価規準の作成や評価事例の考察、評価方法等、評価の進め方について解説している。第2章では、5領域別の評価事例として、「話すこと(やり取り)」におけるパフォーマンス評価やストーリーテリングの手法を活用した「読むこと」の評価等、22の先進校の取り組みが紹介されている。

例えば、「書くこと」の「思考・判断・表現」の能力を評価する事



池田勝久 編集  
1980円 教育開発研究所  
☎03-3815-7041

## 小学校英語「5領域」 評価事例集

例では、6年生の児童に、「1年間の思い出アルバム」を作成するために、「(自分が)行った場所、印象的だったこと(食べたもの、楽しんだことなど)、その時の気持ちを書きましよう」と問題を提示し、この評価として、「相手に伝える目的をもって、選んで書く」内容、正確さ、表現方法、分量の4観点について、加点的式で採点したことを紹介している。

編著者である池田氏は、文部科学省初等中等教育局教科書調査官であり、外国語教育とカリキュラムマネジメントが専門である。本書は氏のもの専門的な視点と小学校教師としての豊富な経験が活かされており、評価に関するQ&Aでは、的確でわかりやすく回答されている。また、ICT機能の活用として、本書に関する文部科学省の膨大な資料については、掲載されている「QRコード」をスマホの画面上で読みとることができ、(愛知教育大学教授・高橋美由紀)